

2014/11/17

柏の景気情報（平成26年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年10月分）

○ 調査期間 : 平成26年10月21日 ~ 10月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	83	53.2%
建設	44	24	54.5%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年10月の調査結果のポイント】

《業況DIはやや回復。但し、コスト増は依然として改善されず、先行き不安は払拭できず》

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業±0.0(同▲4.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲25.0)、卸小売業▲55.5(同▲59.2)である。変わらない業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「省エネ基準の改正により、1次エネルギー計算が必須へ。業界の方もそうですが、一般消費者の認知度が低く、ますますギャップを感じます」(一般土木建築工事業)、「新築住宅が減少し、リフォームが増えていきそう。公共工事が大分出ているが、平準化して欲しい」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「材料(ダンボールシート)の値上げのアナウンスが聞こえてきた」(紙容器製造業)、「人口増加は街の活性化につながる。柏の街のあちこちに新築物件が増加している。最近の自然災害を考慮した人口移動なのか、住み替えなのか、勢いが激しいと何故か不安感が出てくる。経済見通しはまだ不安定である」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「10月序盤～中盤にかけて、二度の大きな台風に見舞われ、動員は大きくマイナス。衣料品は9月に秋物の動きが活発であった反動で婦人・紳士衣料ともに前年を下回る。消費税増税影響による売上ダウン傾向は改善し、時計・宝飾品の高額品は前年を確保するところまで回復している。また、10月25日(土)、26日(日)に開催した「柏商業祭」は連日活況で、非常に大きな動員に繋がった」(百貨店)、「例年より寒さが強かった影響もあり、秋物の売れ行きが好調であった。また、一時冬に近い気温の時にはコートも売れた。高額パンツの売れ行きが良い」(婦人・子供服小売業)、「クリスマスメニュー等の予約商品のスタートを早めるが、お客様の反応は鈍い(人気のキャラクターケーキだけは即日完売)。本当に欲しい物だけしか買わない」(その他の各種商品小売業)、「弊社の場合、売上に対する生鮮商品の割合が多く、冷蔵ケースにかかる電気代が高騰している。この半期だけでも昨年より700万円程多くかかっている」(各種食料品小売業)、「ここに来て更なる原材料の値上げが相次ぎ、商品の価格改定も考えなくてはならなくなった」(菓子・パン小売業)、「2週続けての台風で売上減」(菓子・パン小売業)、「秋の紅葉、行楽シーズンなど、にぎわいが多くなる季節となり、消費動向が活発化して消費拡大を期待できるところ。しかし、消費税の改正は大企業以外では厳しい状況から、節約型消費に動いている感があります」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「来春、柏の葉ゴルフ練習場跡地に江戸川台のスーパーが移転予定。流山おおたかの森と柏の葉キャンパス駅の直通路完成と計画道路により商圈が変わりつつある。店の前が通過道路となり、客足減少で売上に影響があるのではと懸念しています」(その他の飲食料品小売業)、法人需要では、2015年度案件の予算取りのための問合せが発生し始めている。法改正による貸切バス運賃の上昇で、貸切バス利用の団体旅行代金が上昇している。個人需要では、国内旅行は相変わらず大阪のテーマパークが人気」(旅行業)、「不動産賃貸状況については、消費税を始め、諸経費の増加もあり賃料は下げ止まり傾向ですが、上昇するまでの力は感じられない」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種から、「材料費の高騰で採算が合わず、積算の見直しを考える方向になってきた。品質を維持するため必要に思う」(電気工事業)、「材料代の高騰、アジア人件費の高騰により部品単価が上昇しているが、機械販売価格に転嫁できない状況が続いている」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足・人件費高騰

各業種から、「各店舗より人員不足と人件費の高騰が聞かれる」(その他の各種商品小売業)、「前年同月比で、微増ではあるが売上増です。従業員(アルバイト)募集については、時給を上げて確保していく予定。新規開店の同業者は多い」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「海外旅行は、円安と航空運賃上昇による旅行代金アップの影響で、パッケージツアーは前年割れ」(旅行業)、「円安による燃料の高止まりによる先行き不安」(一般貨物自動車運送業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
見通し	▲14.4	△4.1	▲5.8	▲40.7	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小した。

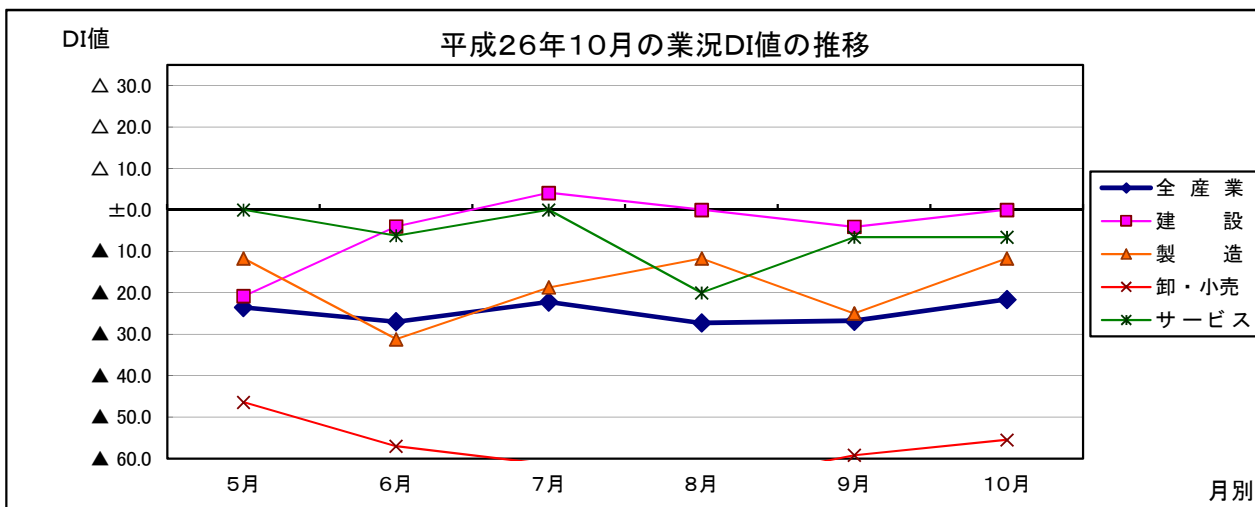
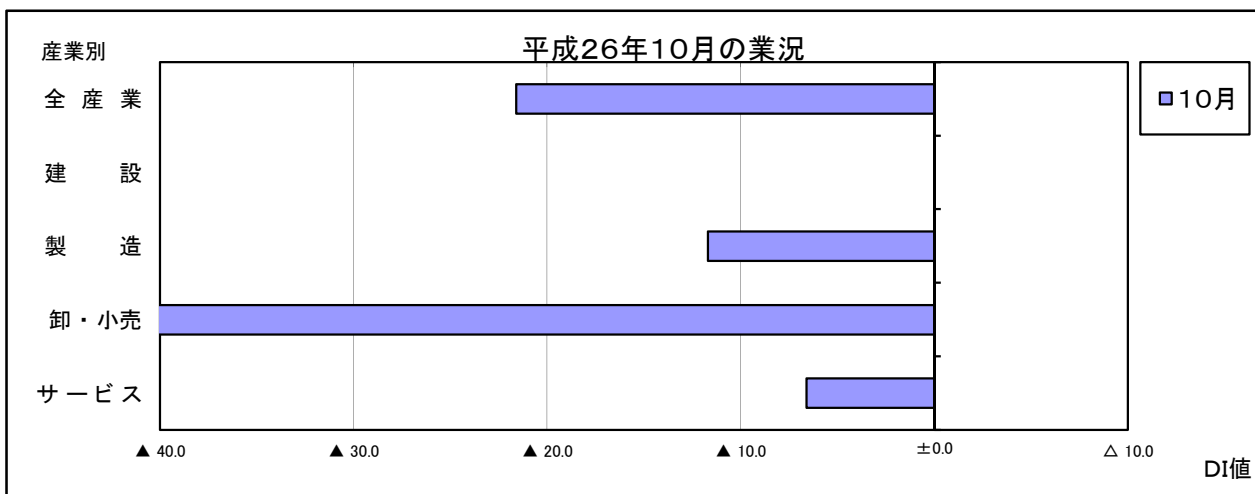
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業±0.0(同▲4.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲25.0)、卸小売業▲55.5(同▲59.2)である。変わらない業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲15.8)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4.1(同▲8.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.7(同▲51.8)である。変わらない見通しの業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.8(同△25.0)である。

平成26年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲23.5	▲27.0	▲22.2	▲27.3	▲26.8	▲21.6	▲14.4(▲15.8)
建設	▲20.8	▲4.0	△4.1	±0.0	▲4.1	±0.0	△4.1(▲8.3)
製造	▲11.7	▲31.2	▲18.7	▲11.7	▲25.0	▲11.7	▲5.8(△25.0)
卸・小売	▲46.4	▲57.1	▲61.5	▲66.6	▲59.2	▲55.5	▲40.7(▲51.8)
サービス	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲6.6	▲6.6(▲6.6)



【平成26年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲15.8)となり、マイナス幅が9.5ポイント拡大した。

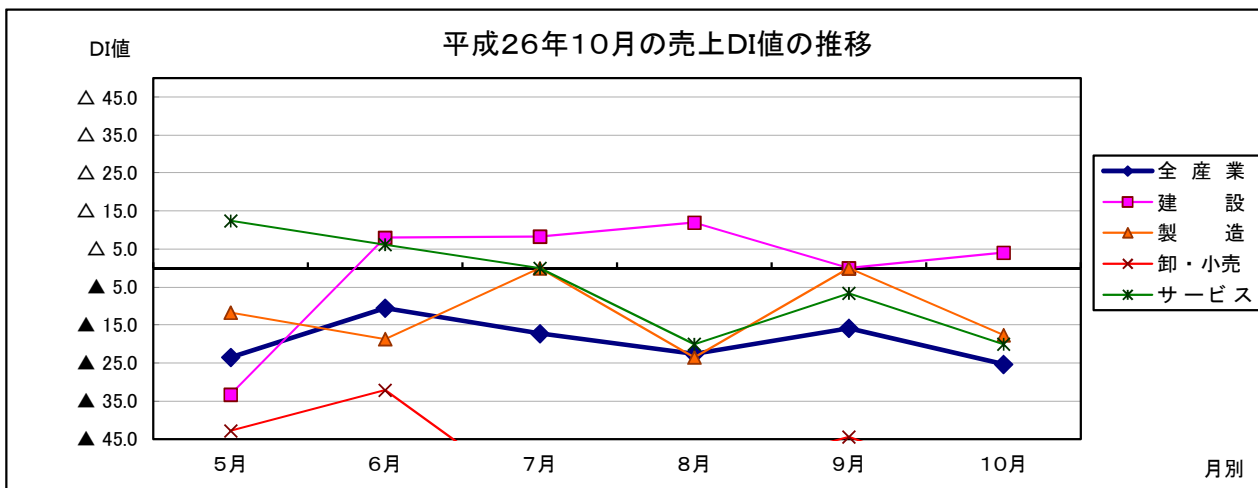
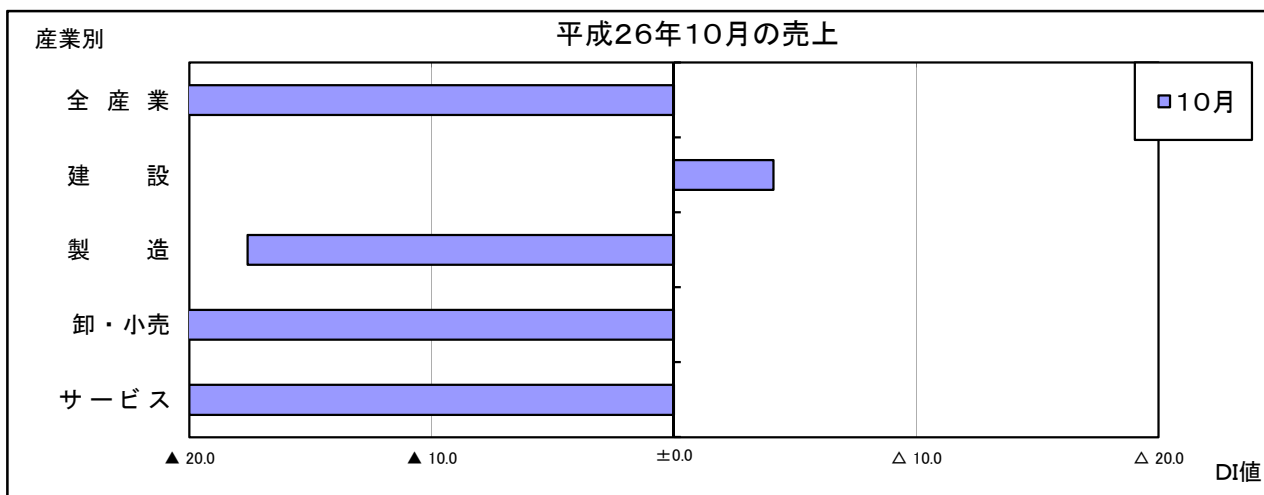
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、建設業△4.1(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲17.6(±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.2(同▲44.4)、サービス業▲20.0(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.8(前月水準▲2.4)となり、マイナス幅が8.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△20.0)、製造業△5.8(同△12.5)であり、特にサービス業では、プラス幅が20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲4.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲25.9)である。

平成26年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲23.5	▲10.5	▲17.2	▲22.6	▲15.8	▲25.3	▲10.8(▲2.4)
建設	▲33.3	△8.0	△8.3	△12.0	±0.0	△4.1	▲4.1(±0.0)
製造	▲11.7	▲18.7	±0.0	▲23.5	±0.0	▲17.6	△5.8(△12.5)
卸・小売	▲42.8	▲32.1	▲61.5	▲55.5	▲44.4	▲59.2	▲33.3(▲25.9)
サービス	△12.5	△6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲20.0	±0.0(△20.0)



【平成26年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.5(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

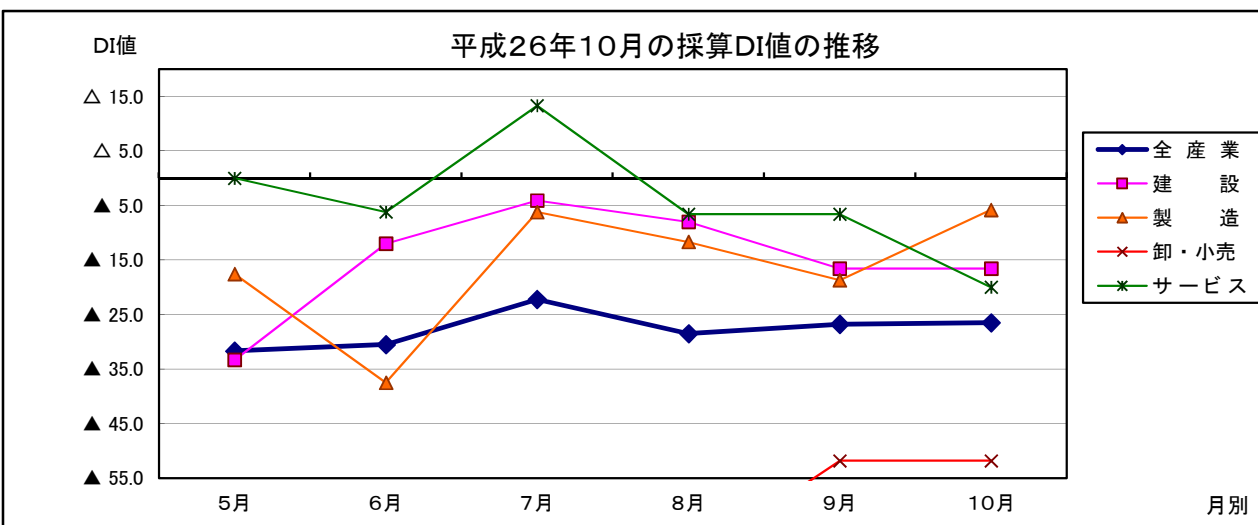
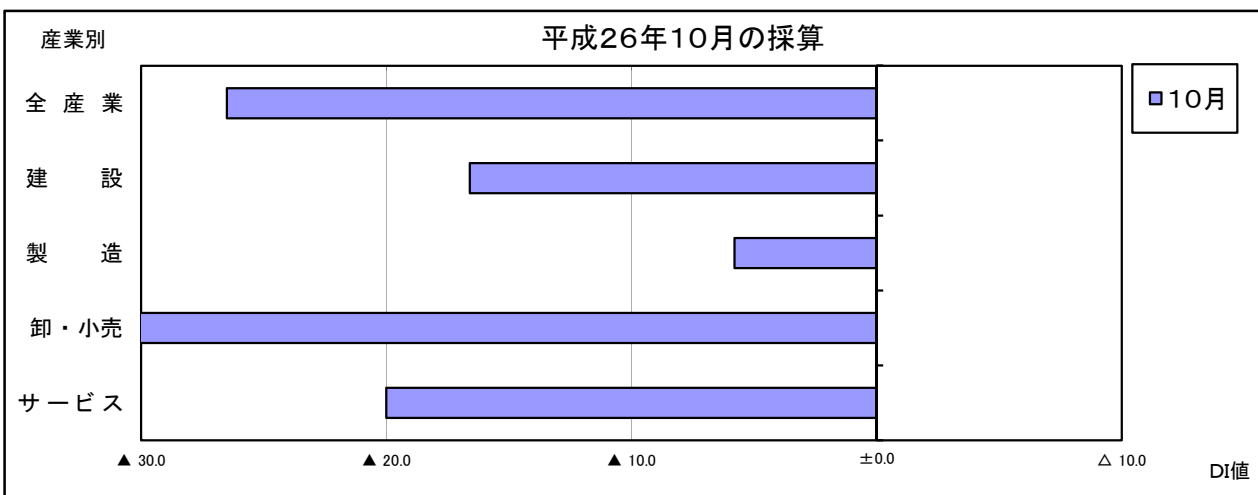
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5.8(同▲18.7)である。変わらない業種は、建設業▲16.6(同▲16.6)、卸小売業▲51.8(▲51.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲20.0(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.2(前月水準▲18.2)となり、マイナス幅が5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(±0.0)、製造業△5.8(±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.7(▲48.1)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲8.3(同▲8.3)である。

平成26年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲ 31.7	▲ 30.5	▲ 22.2	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 26.5	▲ 13.2(▲ 18.2)
建設	▲ 33.3	▲ 12.0	▲ 4.1	▲ 8.0	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 8.3(▲ 8.3)
製造	▲ 17.6	▲ 37.5	▲ 6.2	▲ 11.7	▲ 18.7	▲ 5.8	△ 5.8(±0.0)
卸・小売	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 70.3	▲ 51.8	▲ 51.8	▲ 40.7(▲ 48.1)
サービス	±0.0	▲ 6.2	△ 13.3	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 20.0	△ 6.6(±0.0)



【平成26年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.9(前月水準▲54.8)となり、マイナス幅が19.9ポイント縮小した。

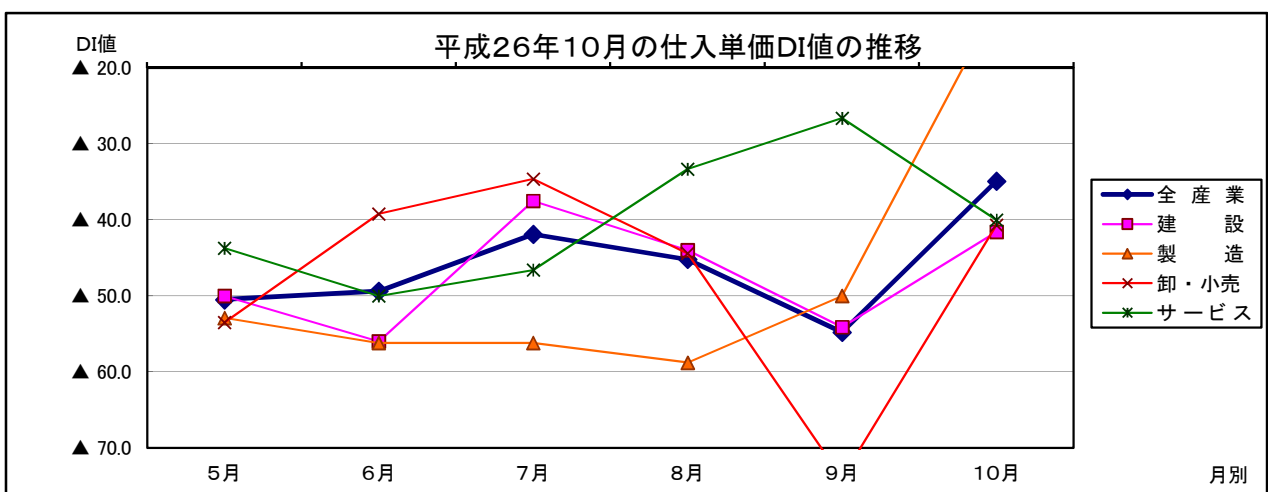
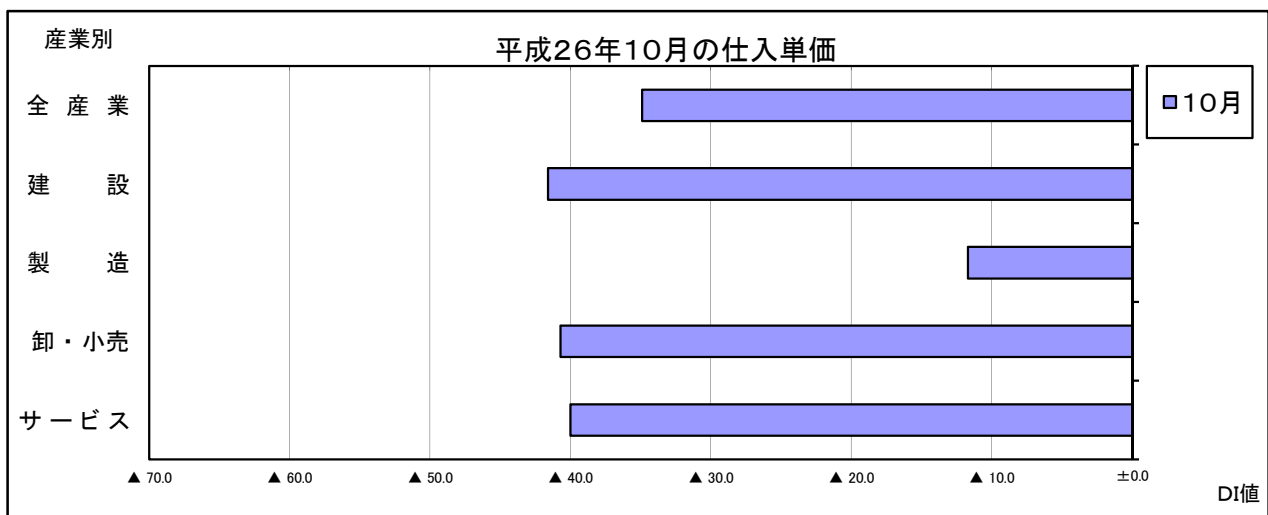
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲50.0)、卸小売業▲40.7(同▲74.0)、建設業▲41.6(同▲54.1)であり、特に、製造業は、マイナス幅が38.3ポイント、卸小売業は、33.3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲40.0(同▲26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.3(前月水準▲42.6)となり、マイナス幅が11.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同▲41.6)、卸小売業▲40.7(同▲55.5)、製造業▲29.4(同▲37.5)である。変わらない見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲26.6)である。

平成26年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲50.5	▲49.4	▲41.9	▲45.2	▲54.8	▲34.9	▲31.3(▲42.6)
建設	▲50.0	▲56.0	▲37.5	▲44.0	▲54.1	▲41.6	▲25.0(▲41.6)
製造	▲52.9	▲56.2	▲56.2	▲58.8	▲50.0	▲11.7	▲29.4(▲37.5)
卸・小売	▲53.5	▲39.2	▲34.6	▲44.4	▲74.0	▲40.7	▲40.7(▲55.5)
サービス	▲43.7	▲50.0	▲46.6	▲33.3	▲26.6	▲40.0	▲26.6(▲26.6)



【平成26年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.6(前月水準△4.8)となり、プラス幅が4.8ポイント拡大した。

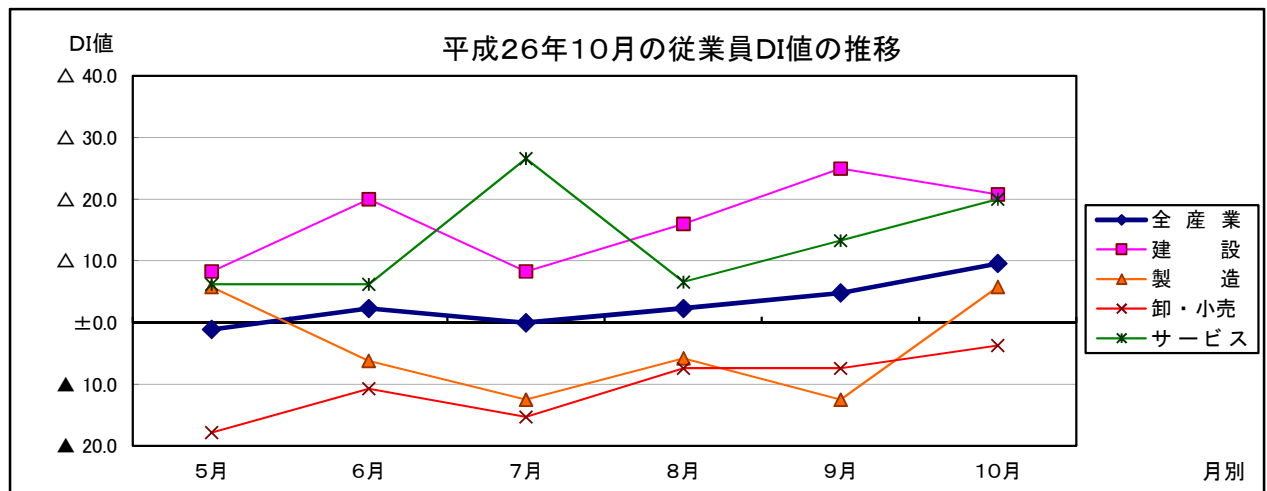
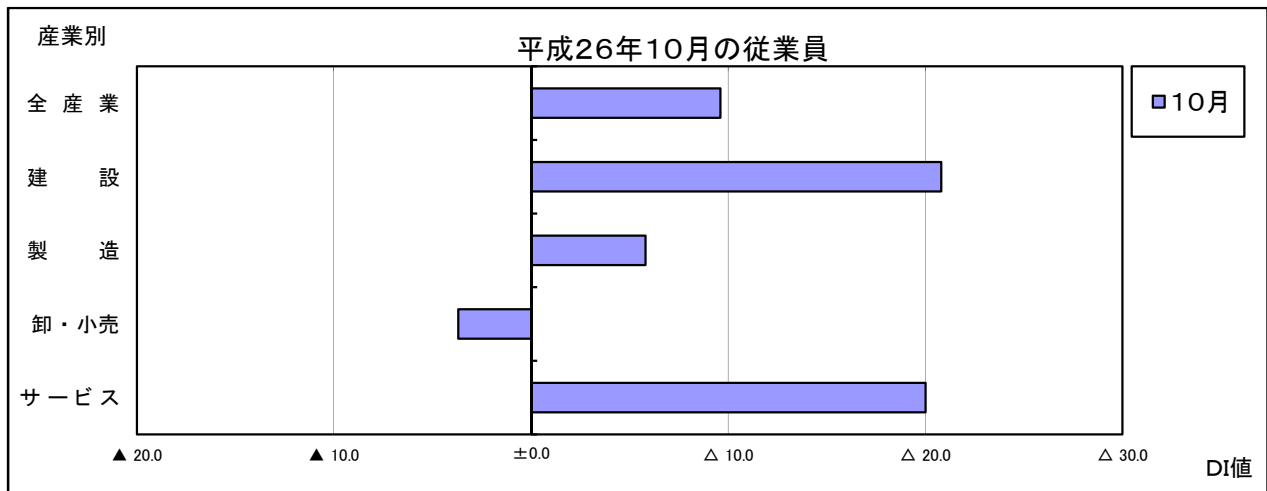
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△13.3)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5.8(▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3.7(同▲7.4)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△20.8(同△25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.8(前月水準△9.7)となり、プラス幅が1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同△20.0)、建設業△25.0(同△20.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.8(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲7.4(同▲3.7)である。

平成26年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲1.1	△2.3	±0.0	△2.3	△4.8	△9.6	△10.8(△9.7)
建設	△8.3	△20.0	△8.3	△16.0	△25.0	△20.8	△25.0(△20.8)
製造	△5.8	▲6.2	▲12.5	▲5.8	▲12.5	△5.8	△5.8(△6.2)
卸・小売	▲17.8	▲10.7	▲15.3	▲7.4	▲7.4	▲3.7	▲7.4(▲3.7)
サービス	△6.2	△6.2	△26.6	△6.6	△13.3	△20.0	△26.6(△20.0)



【平成26年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.2(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。

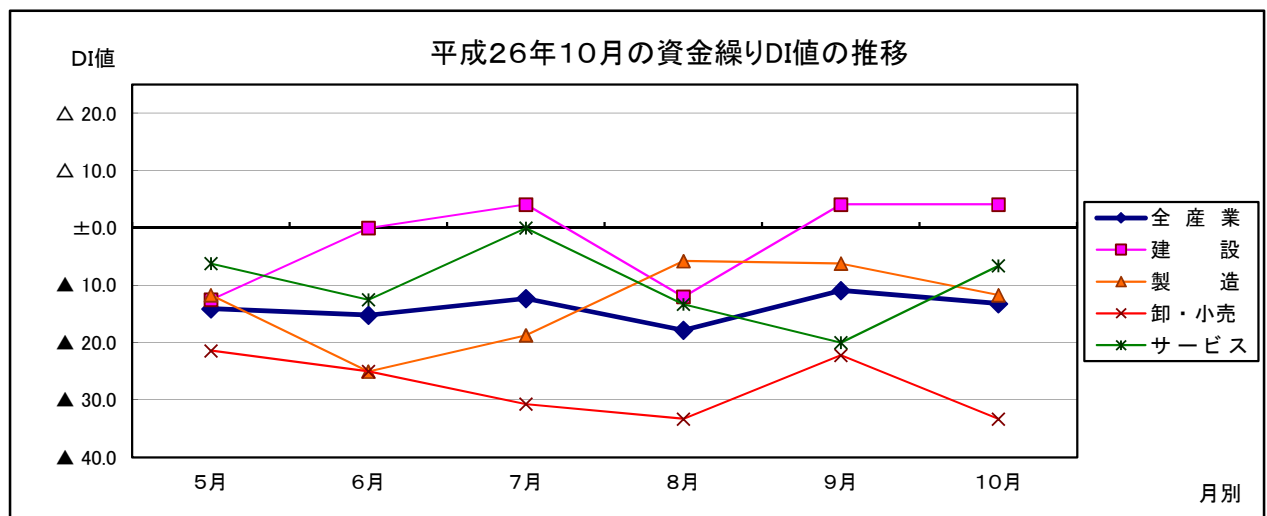
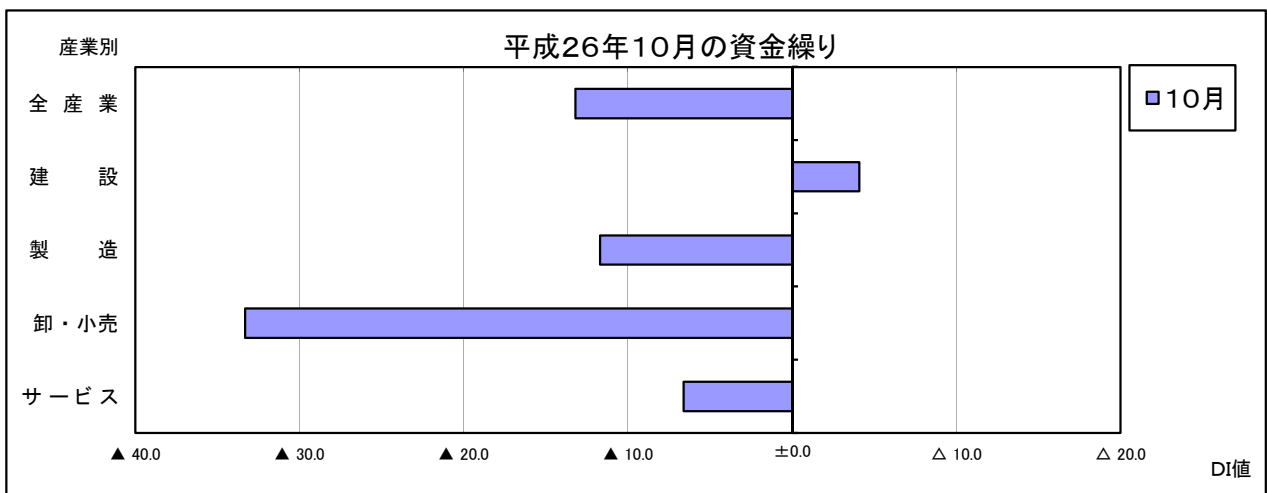
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲20.0)である。変わらない業種は、建設業△4.1(同△4.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲22.2)、製造業▲11.7(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.6(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△11.7(同△6.2)である。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)、卸小売業▲33.3(同▲33.3)、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。

平成26年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲14.1	▲15.2	▲12.3	▲17.8	▲10.9	▲13.2	▲9.6(▲10.9)
建設	▲12.5	±0.0	△4.1	▲12.0	△4.1	△4.1	±0.0(±0.0)
製造	▲11.7	▲25.0	▲18.7	▲5.8	▲6.2	▲11.7	△11.7(△6.2)
卸・小売	▲21.4	▲25.0	▲30.7	▲33.3	▲22.2	▲33.3	▲33.3(▲33.3)
サービス	▲6.2	▲12.5	±0.0	▲13.3	▲20.0	▲6.6	▲6.6(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.3	▲ 10.8	▲ 26.5	▲ 13.2	▲ 34.9	▲ 31.3	△ 9.6	△ 10.8
建設	△ 4.1	▲ 4.1	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 41.6	▲ 25.0	△ 20.8	△ 25.0
製造	▲ 17.6	△ 5.8	▲ 5.8	△ 5.8	▲ 11.7	▲ 29.4	△ 5.8	△ 5.8
卸・小売	▲ 59.2	▲ 33.3	▲ 51.8	▲ 40.7	▲ 40.7	▲ 40.7	▲ 3.7	▲ 7.4
サービス	▲ 20.0	±0.0	▲ 20.0	△ 6.6	▲ 40.0	▲ 26.6	△ 20.0	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.6	▲ 14.4	▲ 13.2	▲ 9.6
建設	±0.0	△ 4.1	△ 4.1	±0.0
製造	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 11.7	△ 11.7
卸・小売	▲ 55.5	▲ 40.7	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 6.6

【平成26年10月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	省エネ基準の改正により、1次エネルギー計算が必須へ。業界の方もそうですが、一般消費者の認知度が低く、ますますギャップを感じます。	省エネ基準の改正	一般土木建築工事業
	9月は半期決算の為、受注が多かったが、今月はかき集めたという感じがある。	半期決算 受注増加	石工れんがタイルブロック工事業
	材料費の高騰で採算が合わず、積算の見直しを考える方向になってきた。品質を維持するため必要に思う。	原材料費高騰 価格の見直し 不採算	電気工事業
	柏市あけぼの山公園の売店に置コースターや置小物、置縁(へり)バッグを置いてもらえるようになりました。置の部屋で勉強すると集中力が高まり、成績向上するというデータにあやかり、合格ゴザの販売を開始。内職の方を募集中。	新商品販売	内装工事業
	新築住宅が減少し、リフォームが増えていきそう。公共工事が大分出ているが、平準化して欲しい。	受注減(新築) 受注増加	その他の職別工事業
製造業	材料代の高騰、アジア人件費の高騰により部品単価が上昇しているが、機械販売価格に転嫁できない状況が続いている。	原材料費高騰 人件費高騰(アジア圏) 販売価格転嫁	その他の機械・同部品製造業
	材料(ダンボールシート)の値上げのアナウンスが聞こえてきた。	原材料費高騰	紙製容器製造業
	人口増加は街の活性化につながる。柏の街のあちこちに新築物件が増加している。最近の自然災害を考慮した人口移動なのか、住み替えなのか、勢いが激しいと何故か不安感が出てくる。経済見通しはまだ不安定である。	人口増加	印刷業
卸小売	10月序盤～中盤にかけて、二度の大きな台風に見舞われ、動員は大きくマイナス。衣料品は9月に秋物の動きが活発であった反動で婦人・紳士衣料ともに前年を下回る。消費税増税影響による売上ダウン傾向は改善し、時計・宝飾品の高額品は前年を確保するところまで回復している。また、10月25日(土)、26日(日)の2日間開催の「柏商業祭」は連日活況で、非常に大きな動員に繋がった。	台風による客数減 柏商業祭による集客増	百貨店
	例年より寒さが強かった影響もあり、秋物の売れ行きが好調であった。また、一時冬に近い気温の時にはコートも売れた。高額パンツの売れ行きが良い。	秋物衣料好調	婦人・子供服小売業
	クリスマスメニュー等の予約商品のスタートを早めるが、お客様の反応は鈍い(人気のキャラクターケーキだけは即日完売)。本当に欲しい物だけしか買わない。	クリスマスメニュー予約 開始	その他の各種商品小売業
	各店舗より人員不足と人件費の高騰が聞かれる。	人手不足 人件費高騰	その他の各種商品小売業
	弊社の場合、売上に対する生鮮商品の割合が多く、冷蔵ケースにかかる電気代が高騰している。この半期だけでも昨年より700万円程多くかかっている。	電気代高騰	各種食料品小売業
	ここに来て更なる原材料の値上げが相次ぎ、商品の価格改定も考えなくてはならなくなった。	原材料費高騰 価格の見直し	菓子・パン小売業
2週続けての台風で売上減。	台風による売上減	菓子・パン小売業	

【平成26年10月の業種別業界内トピックス】

	秋の紅葉、行楽シーズンなど、にぎわいが多くなる季節となり、消費動向が活発化して消費拡大を期待できる。しかし、消費税の改正は、大企業以外では厳しい状況から、節約型消費に動いている感があります。青果物においても、産地が変わる時期から入荷はまちまちの状態であり、日照不足による入荷減や順調な入荷もあり、前年並みの入荷であるが、高値や単価安と総体して取り扱いが減少しています。今後も厳しい状況ですが、安心、安全な青果物を迅速に提供することを継続していきます。	紅葉、行楽シーズン 消費拡大への期待 節約型消費 天候不順 不安定な取引状況	食料・飲料卸売業
	前年同月比で、微増ではあるが売上増です。従業員(アルバイト)募集については、時給を上げて確保していく予定。新規開店の同業者は多い。	売上増 人手不足 人件費高騰 時給値上げ 新規開店	酒場・ビヤホール
	来春、柏の葉ゴルフ練習場跡地に江戸川台のスーパーが移転予定。流山おおたかの森と柏の葉キャンパス駅の直通道路完成と計画道路により商圏が変わりつつある。店の前が通過道路となり、客足減少で売上に影響があるのではと懸念しています。冬物のセール(メール、チラシ)が例年より早く来ている。	新規出店(移転による) 客数減 商圏の変化 冬物セール	その他の飲食料品小売業
	円安による燃料の高止まりによる先行き不安。	円安の影響 燃料費高騰	一般貨物自動車運送業
サービス	法人需要では、2015年度案件の予算取りのための問合せが発生し始めている。法改正による貸切バス運賃の上昇で、貸切バス利用の団体旅行代金が増している。個人需要では、国内旅行は相変わらず大阪のテーマパークが人気。某旅行商品による優先入場やアトラクション待ち時間短縮により、また、沖縄も人気。海外旅行は、円安と航空運賃上昇による旅行代金アップの影響で、パッケージツアーは前年割れ。	2015年度案件の発生 新貸切バス運賃上昇 テーマパーク人気 円安の影響 航空運賃上昇 旅行代金上昇 ツアー前年割れ	旅行業
	夏季に比べ、来客数、反響数ともに増加しています。契約数もやや増加しています。年末にかけてこのままの勢いが続くことを期待しています。	来客数増加 受注・売上増	不動産管理業
	パート・アルバイトを雇うのに、ハローワーク松戸まで行かなくてはならないので面倒です。柏で求人登録が出来ると本当に助かるのですが…。	アルバイト雇用 ハローワーク	不動産賃貸業
	不動産賃貸状況については、消費税を始め諸経費の増加もあり、賃料は下げ止まり傾向ですが、上昇するまでの力は感じられない。	諸経費の増加 賃料下げ止まり	不動産賃貸・管理業

◎**原材料費高騰**

材料費の高騰で採算が合わず、積算の見直しを考える方向になってきた。品質を維持するため必要に思う。

電気工事業

材料代の高騰、アジア人件費の高騰により部品単価が上昇しているが、機械販売価格に転嫁できない状況が続いている。

その他の機械・同部品製造業

◎**人手不足・人件費高騰**

各店舗より人員不足と人件費の高騰が聞かれる。

その他の各種商品小売業

前年同月比で、微増ではあるが売上増です。従業員(アルバイト)募集については、時給を上げて確保していく予定。新規開店の同業者は多い。

酒場・ビヤホール

◎**円安の影響**

海外旅行は、円安と航空運賃上昇による旅行代金アップの影響で、パッケージツアーは前年割れ。

旅行業

円安による燃料の高止まりによる先行き不安。


一般貨物自動車運送業











平成26年10月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.6に対し、「CCI-LOBO」が▲24.5で柏の方がマイナス幅が2.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.4で柏の方がマイナス幅が8.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.6で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.9に対し、「CCI-LOBO」が▲51.3で、柏の方がマイナス幅が16.4ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が良く、建設業、製造業、サービス業では10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.6に対し、「CCI-LOBO」が△12.7で柏の方がプラス幅が3.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.2に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が1.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業である。











平成26年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.6	 ±0.0	 ▲ 11.7	 ▲ 55.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 24.5	 ▲ 11.3	 ▲ 11.3	 ▲ 44.0	 ▲ 22.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.3	 △ 4.1	 ▲ 17.6	 ▲ 59.2	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 4.3	 ▲ 4.0	 ▲ 40.5	 ▲ 12.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.5	 ▲ 16.6	 ▲ 5.8	 ▲ 51.8	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.6	 ▲ 15.6	 ▲ 15.1	 ▲ 39.9	 ▲ 23.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 34.9	 ▲ 41.6	 ▲ 11.7	 ▲ 40.7	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 51.3	 ▲ 59.9	 ▲ 51.0	 ▲ 44.7	 ▲ 51.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 9.6	 △ 20.8	 △ 5.8	 ▲ 3.7	 △ 20.0
CCI-LOBO	 △ 12.7	 △ 22.6	 △ 7.1	 △ 13.1	 △ 17.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.2	 △ 4.1	 ▲ 11.7	 ▲ 33.3	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 14.8	 ▲ 11.2	 ▲ 6.0	 ▲ 24.9	 ▲ 16.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成26年10月15日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が3156企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、引き続き回復に遅れ。先行きも不透明感から足踏みが続く見込み

10月の全産業合計の業況DIは、▲24.5と、前月から▲0.3ポイントのほぼ横ばい。中小企業においては、仕入価格やエネルギーコストの上昇に伴う収益圧迫が続く中、消費税率引き上げ以降、受注・売上の回復が遅れており、景況感が弱さがみられる。とりわけ、小売業からは、台風の影響に加え、家計負担の増大に伴う消費者の買い控えや低価格志向の強まりを指摘する声が聞かれるなど、個人消費は力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5(今月比+1.0ポイント)と、ほぼ横ばいを見込む。冬の賞与増などを背景に、年末に向けて景気は緩やかに持ち直すとの見方があるものの、足元の受注・売上の伸びの弱さを懸念する声も聞かれる。また、当初見込んでいた生産や消費の回復時期が後ずれする中、コスト増に伴う収益圧迫や、家計負担の増大による消費者の生活防衛意識の高まりなど、先行きに対して確信が持てない中小企業にお

いて、慎重な見方が広がっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「工作機械メーカーの設備投資が向上しており、受注が増加」（一般工事業）、「資材価格や人件費の上昇分を施工単価に反映できず、収益を圧迫。特に大型案件は採算が合わず、入札不調が続いている」（一般工事業）、「新築住宅関連で、来年10月の消費税率引き上げを見据えた相談が増えてきている」（建築工事業）

【製造業】「原材料価格上昇分を商品に転嫁。割高感が増すことで一時的な売上減少を見込んでいたが、想定より回復が遅い」（食料品製造・販売業）、「中国から調達している原材料価格が上昇。コスト削減のため、調達先をタイやインドネシアに切り替えた」（ねん糸製造業）、「電子部品・デバイスや産業機械などの製造業向けが堅調。他方、自動車向けの受注が減少している」（はん用機械器具製造業）

【卸売業】「台風の影響によ

り一部で被害が出たものの、総じて野菜の生育は良く、高値が続いた卸値は落ち着いてきている」（農産物卸売業）、「仕入価格が上昇しているものの、消費者の節約志向の高まりから販売価格を下げざるを得ず、採算は厳しい」（飲料品卸売業）、「消費税率引き上げの影響が続いており、冬物衣料の出足が鈍い」（衣料品卸売業）

【小売業】「家計負担が増す中、消費者の間で、必要な商品のみ購入し、その他の支出を控える傾向が強まっている」（百貨店）、「2週続けて週末に台風が上陸したため、来客数が伸び悩んだ」（日用品販売店）、「11月からの電力料金値上げにより光熱費のさらなる増大が見込まれ、経営に大きな打撃となる」（商店街）

【サービス業】「ガソリン価格が依然として高水準であることに加え、利用客の減少もあり、業況は厳しい」（タクシー業）、「売上は好調なもの、採算面での改善が遅れている。先行きは、年末の集客に期待したい」（飲食業）、「上海や大連など、中国からの観光客が増加傾向にある」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
8月	▲20.5	▲4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
見通し	▲23.5	▲14.3	▲15.6	▲24.1	▲37.3	▲23.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI